

第2章 文化財の把握調査

1. 地域史の刊行物

本市では、文化財の調査をふまえた『高槻市史』をはじめとする市域の歴史や文化財に関連した書籍、報告書などを多数発行しています。

(1)高槻市史等

昭和48(1973)年1月の市制施行30周年の記念事業の一環として、本市では、『高槻市史』の刊行を計画し、昭和44(1969)年から編纂事業に着手しました。編纂にあたり、「①記述すべき内容の時間的下限を昭和50(1975)年とし、発掘される考古資料のうち収録されるものは、これを昭和47(1972)年に発掘されるものまでのものとする。②高槻市の歴史がそこにおいて展開した地理的環境を、自然・人文両面から明らかにする。③本市史の記述は、常に、近接地域のみならず、日本史全体の発展と関連づけつつ把握して行う。④あくまで客観的学術的であると同時に、一般市民にも読みやすく親しまれやすいものとする。」との方針のもと、第1～6巻(本編Ⅰ・Ⅱ、史料編Ⅰ～Ⅳ、考古編)を発行しています。

市史に関連して収集調査した古文書は、『高槻市史史料目録』として昭和45(1970)年の第1号から第23号までを刊行し、現在は市立しろあと歴史館(平成15(2007)年開館)が作業を引き継ぎ、調査のまとまった古文書群から順次、目録と概要を本市ホームページで公開しています。なお、本市教育委員会では、テーマ別に研究成果を取りまとめた『高槻叢書(第1～16集)』を刊行しています。

(2)その他、行政発行の刊行物

『高槻市史』のほか、文化財課や市立埋蔵文化財調査センター、しろあと歴史館、今城塚古代歴史館等では、調査成果を取りまとめた報告書等を発行してきました。

- ・『高槻市文化財調査報告書』第1冊～第37冊
- ・『高槻市文化財調査概要』1～47
- ・『高槻市文化財年報』昭和48(1973)年度～令和元(2019)年度

また、しろあと歴史館と今城塚古代歴史館では特別展・企画展等の展示図録、文化財課では『高槻の史跡』などの文化財冊子や散策マップ「歴史の散歩路」コースガイドなどを刊行しています。

その他、大阪府や公益財団法人大阪府文化財センター、大学等の研究機関においても、高槻市域の遺跡発掘調査に関する報告書類が発行されています。

(3)団体発行の地域史

しろあと歴史館・今城塚古代歴史館を主な活動拠点とし、市と協働して文化財や歴史に関するボランティア活動を展開するNPO法人高槻市文化財スタッフの会では、新たな古文書の翻刻や石造物の調査などにも取り組み、その成果を『古文書グループ史料集』第1号～第6号や道標、石造物などの資料にとりまとめ、市立図書館等の関係先に寄贈されています。

2. 文化財の調査

市域での文化財調査は、明治 13(1880)年代の英国人ゴードンによる市内古墳の踏査にさかのぼりますが、市主体の文化財調査は、府内自治体に先駆けた昭和 44(1969)年の市文化財保護条例施行と市史編纂事業が契機となりました。市史編纂委員会が組織され古文書収集等に着手する一方、条例に基づき組織された市文化財保護審議委員による建造物、古文書、地域植生、民俗資料の基本調査が行われました。以後、これまでに古民家を含む建造物、地域植生、顕著な民俗事例は抽出、道標等石造物は悉皆調査をほぼ終え、古文書は収集古文書を引き継いだしろあと歴史館の調査によって主だった文書群を把握しています。

また埋蔵文化財は、調査会組織や大阪府の支援を受けた段階を経て、昭和 40(1965)年代後半から市の直営調査で学校建設や民間開発に対応し、昭和 50(1975)年には全国第 1 号の埋蔵文化財調査センターを開設。以来同センターを拠点に、市域の発掘調査を進め地域史の構築につながる調査成果を蓄積してきました。包蔵地の把握は、所管の大阪府との整合を図りつつ、台帳を作成し適時に更新しています。

本市を旧町村の範囲を基にした 6 つのゾーンで区分し、各ゾーンでの文化財の調査の進捗状況をみると、有形文化財のうち、近代の建造物と美術工芸品（絵画・彫刻等）、祭礼等民俗の聞き取り等は、大阪府等による調査が行われ、本市でも適時調査してきましたが、悉皆的な把握には至っていません。中でも、建造物と民俗文化財については、ゾーンⅠ～Ⅴの全てで進捗中となっており、今後の調査の充実が望まれます。特に、ゾーンⅡに含まれる高槻城下町では、今後芸術文化劇場と高槻城公園の整備に伴い注目が高まると予想されることから、重点的な把握・調査に取り組み、保存・活用への基礎資料とすることが必要です。ゾーンⅤの富田においても、歴史的な町並みが残っており、今後調査を進めていくことが必要です。また仏像については、ゾーンⅢ～Ⅵで把握が十分ではないことから、現在調査を意識的に進めているところです。

市域を通じてほぼ未着手の名勝地や文化的景観、伝統的建造物群、選定保存技術については、各地の先行事例に比して顕著な事例に乏しく、他の種別の文化財についての調査・把握を優先すべきと考えられます。

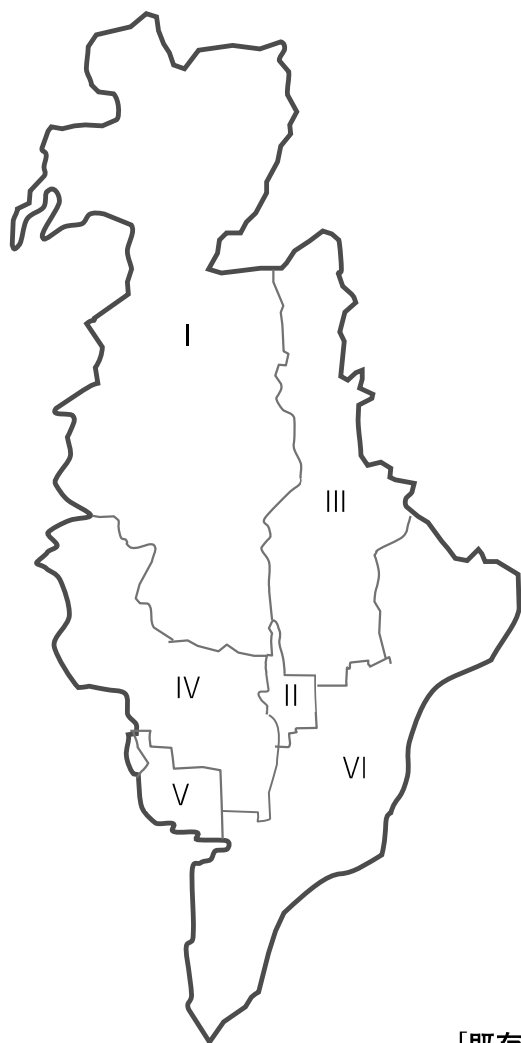
上記の現状を踏まえ、現状で「△進捗中」の種別・ゾーンを優先し、今後の調査の進め方を検討します。また、これまで古文書や石造物等限られた範囲に留まっていた市民や大学等、民間との共同調査や研究についても、今後連携範囲を広げていくことを検討します。

[ゾーンと旧村・大字の対応]

ゾーン	村名	大字										
Ⅰ	榎田	田能	中畑	出灰	二料	杉生						
	清水	服部	真上	原	萩谷							
Ⅱ	高槻	高槻	上田部									
Ⅲ	磐手	安満	下	古曾部	別所	成合	川久保					
Ⅳ	阿武野	土室	氷室	岡本	奈佐原	靈仙寺	宮田	赤大路	塚原	宿名		
	芥川	芥川	郡家									
	如是	東五百住	西五百住	津之江	芝生	庄所						
Ⅴ	富田	富田										
Ⅵ	五領	萩ノ庄	梶原	井尻	鵜殿	上牧	神内	前島				
	大冠	辻子	野中	中小路	大塚	番田	東天川	西天川	下田部	西冠	土橋	野田
	三箇牧	三島江	唐崎	柱本	西面							

※ゾーンは、地域の歴史性を鑑み、明治 22(1889)年の町村制時の行政村ごとに区分したものです。

[高槻市域（ゾーン）の区分]



- I : 樫田、清水
- II : 高槻
- III : 磐手
- IV : 阿武野、芥川、如是
- V : 富田
- VI : 五領、大冠、三箇牧

[既存調査の実施状況]

進捗状況 ○ : 概ね完了 △ : 進捗中 □ : 未着手

種別		ゾーン						
		I	II	III	IV	V	VI	
有形文化財	美術 工芸	建造物	△	△	△	△	△	△
		絵画	○	○	△	△	△	△
		彫刻	○	○	△	△	△	△
		工芸品	○	○	△	△	△	△
		書跡等	○	○	○	○	○	○
		歴史資料	○	○	○	○	○	○
		考古資料	○	○	○	○	○	○
無形文化財		△	△	□	□	□	△	
民俗文化財	有形	△	△	△	△	△	△	
	無形	○	△	△	△	△	△	
記念物	遺跡	○	○	○	○	○	○	
	名勝地	□	□	□	□	○	□	
	動物、植物、地質鉱物	△	△	△	△	△	△	
文化的景観		□	□	□	□	□	□	
伝統的建造物群		□	△	□	□	△	□	
選定保存技術		□	□	□	□	□	□	
埋蔵文化財		△	△	△	△	△	△	